

第33回 卒業証書授与式

本日3月1日、多数の来賓のご臨席のもと、卒業証書授与式が
行されます。山梨県立甲府昭和高等学校第33期生、278名が学
舎を旅立ちます。これで創立以来の卒業生は10,498名を数えます。
新卒業生の活躍と輝かしい未来に対し、心からの祝意を表します。



紫映通信

第34号

発行 山梨県立甲府昭和高等学校
編集 山梨県立甲府昭和高等学校
印刷 山梨県立甲府昭和高等学校

智を磨き 心をきたへ

校長 井上耕史



第二十三期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにおかれましては、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。また、日頃よりPTA会長小澤様をはじめとする保護者の皆さま方のご協力により、学校運営が円滑に行われてきましたことに感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年は平成から新しい元号へと大きな時代の節目を迎えることとなります。今年度創立三十五周年を迎えた甲府昭和高校も、昭和、平成を経て新たな時代へとその歴史を刻んでいくこととなります。校訓である「白土創造」の精神、伝統の「さわやか教育」、そして「文武両道を支える教育課程」など本校の特色を次代に継承しながら、

さて、本校の校歌に「智を磨き、心をきたへ」という一節があります。卒業生の皆さんは本校での三年間の様々な経験から日常的に智を磨き、心を鍛えてきたことと思いますが、卒業に際し、「これまで自分が経験したことからのように智を磨き、心を鍛えてきたか。そのことで今の自分にはどのような力が身に付いているか。それを新たな生活でどのように生かしていくか、伸ばし続けていくか。」今の自分とじっくり向き合い、新たなスタートを切ってほしいと思います。

高校までの勉強には基本的に答えがありました。正解を求めて勉強してきたと思います。しかし、社会に出たら正解など見つかりません。そもそも答えがあるかどうかさえわからないことが多いのです。誰も答えを知らない「問い」自体を自分で見つけなければなりません。社会で智を磨くためには「問いを立てる力」が必要となります。そのためにこれからの学習や生活の中で、疑問や課題に思うことを見出し、そこから思考や思索をめぐらせ自ら学びを深めていく必要があります。

そして、心を鍛えるためには、失敗を恐れず「挑戦する姿勢を持ち続けること」が大切になります。挑戦しないこと自体が失敗であると考えてください。自分が目指す目標を見定め、こつこつと努力を続け、失敗しても諦めずに挑戦し続けることで心は鍛えられていくものです。卒業生の皆さんが、高校時代に多くの人との出会いの中で智を磨き、心を鍛えたように、これから様々な出会いを大切に、前途に立ちふさがる困難や新たな課題を一つ一つ乗り越えながら、自分の目指す道を切り拓いていくことを祈っています。

世界にひとつだけの花

PTA会長 小澤 浩



本日、卒業式を迎えられた皆さん、卒業おめでとうございます。そして、今日は、親御様、また、ご親族の願いが大きく花開いた日とも言えるのではないのでしょうか。

『そうさ僕は世界に一つだけの花、一人ひとり違う種を持つ、その花を咲かせることだけに、一生懸命にならばいい。』

皆さんが幼少の頃、日本中に響きわたったスマップの名曲。あまりにも有名で、知っているよと聞きたる。挑戦しないこと自体が失敗であると考えてください。自分が目指す目標を見定め、こつこつと努力を続け、失敗しても諦めずに挑戦し続けることで心は鍛えられていくものです。卒業生の皆さんが、高校時代に多くの人との出会いの中で智を磨き、心を鍛えたように、これから様々な出会いを大切に、前途に立ちふさがる困難や新たな課題を一つ一つ乗り越えながら、自分の目指す道を切り拓いていくことを祈っています。

日本中の、いえおそく世界中の人が頷いたのは、皆、心の中での言葉を待っていたのではないのでしょうか。

今、世界では、AIやロボットが人間の代わりをする開発が進められ、また科学技術も急速な進展が予想されます。何を求めてAIやロボットを活用するのか。この目的を考え出すのは人間自身です。どのような未来を創るのか、どのように社会や人生をよりよくするのか、複雑な状況の中でも、場面や状況を理解し、目的を設定することが必要です。

社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働しながら問題を解決する「生きる力」を育むことが求められると、提唱されています。

「生きる力」それはまさに、まず自分への信頼ではないでしょうか。今日までガンバって生きてきた自分の力。そして、育てて下さった周囲の方のあなたへの愛、思い。そうした目に見えない大きな力で生かされている自分である！、いつも誇りに思ってください。

『小さな花や大きな花、一つとして同じものはないから、No.1にならなくてもいい。もともと特別なOnly one』

どうか、あなたのいる場所で、あなたの花を咲かせて下さい。

結びに、本年度PTA活動にご理解、ご協力下さいました諸先生方、役員、保護者の皆様、生徒の皆様は心より感謝申し上げます。本日に有難うございました。

学年部会長より

笑顔忘れずに

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

増田 武久

第三十三期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。

早いもので子供達の高校生活もあと少しとなりました。ほっとした気持ちや寂しい気持ちや、もっともっと何かしておけばよかったかな、等と色々な気持ちが入り混じり複雑な思いでお祝いの言葉を考えておりました。保護者の皆様におかれましては、この三年間、義務教育と違い高校生になり思春期のおが子と口々格闘してきた事と思います、ひとまずお疲れ様でした。P T A 活動に携われた最高の思い出は強歩大会での生徒の皆さんの頑張り、本当は返事もしたくないくらい苦しい中、ついつい頑張り声をかけてしまった沿道の父兄の声援に誰一人嫌な顔せず笑顔でありがとうございましたと応えている姿を見て不覚にも涙腺が緩んでしまった時、甲府昭和高校に入学してくれて良かったと家内と話したのを思い出します。そしてわが子でさえ大変な年頃の生徒達を優しく、時には厳しくご指導いただいた校長先生をはじめ先生方、本当にありがとうございました。感謝の言葉しかありません。卒業生の皆さん、今はまだ実感がなくともかもしれませんが昭和高校の先生方から学んだ事、友達との友情、家族の愛情、将来皆さんが独立し家庭を持ち振り返ったときと理解できることでしょう。皆さんはこれから将来の夢に向かってそれぞれの進路を歩むわけですが、社会に出る前の今しか出来ない時間を大切に人生を楽しんで下さい。そして常に人を思いやり、少しでもいいので人の為になる事を忘れず笑顔で前向きに生きてください。

最後になりますが皆様のご多幸と今後のご活躍をお祈りします。

出会いを大切に

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

渡辺 香澄

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

縁あってP T A の役員をさせていただき、皆様の温かいご支援とご協力にささえられ一年間努めることが出来ました。P T A 総会での挨拶から始まったのですが、その後どうしたらよいかわからない私に、先生方がいつも親切に温かく教えていただきました。

紫映祭では、P T A の出店を手伝っていただきました。保護者の方とも仲良くなり、生徒の皆さんの楽しそうな姿もたくさん目にすることが出来ました。学校行事では家ではわからない子供の成長を間近でみることが出来ました。

秋には、校長室で、先生方と役員の数名が集まり臨時の役員会がありました。難しいテーマでしたが、私たち保護者の意見を親身になって聞いてくれました。いい体験になりました。先生方が学校や生徒の事をとても大切に考えてくださっているんだとあらためて感じました。

人と協力したり助け合ったりする大切さを感じた一年間でした。

卒業生の皆さん、これから、色々な人との出会いを大切に、助け合いながら、夢に向かって進んでいってください。皆さんのご多幸と成功を心より祈っています。

一歩踏み出す勇気

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

浅利 賢子

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

息子が甲府昭和高等学校に入学し、ご縁あって私もP T A 役員をさせていただくことになりました。いくつかの活動に関わらせていただきましたが、中でも紫映祭でのP T A 出店が心に残りました。

紫映祭では、P T A の出店として、クレープを販売しました。とても暑い日で、生徒の皆さんも汗だくになりながら、模擬店や発表を頑張っている姿に活気と眩しさを感じました。私達役員もお顔を合わせるのが初めての方も多かったのですが、協力しながら大きな声を出して販売を頑張りました。販売する場所が目立たない所でしたので、移動販売するアイデアが出されました。クレープとお釣りを持って、体育館の方で販売をしました。声を出す照れくささも私にはあり、少し勇気が要りましたが、活気に溢れる空間の中では声を出すことができました。このことはとても良い経験と思い出になると共に、一歩踏み出す勇気を学ぶ機会となりました。初めての紫映祭は楽しく充実した一日となりました。

一歩踏み出す勇気と先述しましたが、一歩にも大小があり、それぞれの人生の中で踏み出すシーンも様々だと思います。一歩踏み出した先には、経験という引き出しがまた一つ増えます。そして経験の引き出しが増える程、自信もついてくると思います。何歳になっても、一歩踏み出す勇気が必要な時があります。日々引き出しを増やし成長してゆくために何歩も踏み出してみたいと思います。

このようなことを改めて考える機会を与えていただいたP T A の一年間の活動に感謝いたします。

最後になりますが、皆さんのご多幸と成功を心よりお祈りいたします。

PTA各専門委員会より

今年度のPTA活動を振り返って

進路指導部専門委員長 堀内美代子

三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

私は、縁あって二年間PTAの役員を務めさせていただくことになりました。その間、PTAの活動を通じていろいろな方との出会いなどからたくさんの何ものにも代えがたい貴重な経験をする事ができましたことを本当に感謝しております。

本年度の進路指導部のメインイベントである講習会が去る六月五日講師に高篠弘樹先生をお招きしまして開催されました。高篠先生のお言葉一つ一つに一喜一憂しながらこれからの子供への関わり方への道しるべとなるとも勉強になるお話を拝聴できましたこととその会に関われたことを感謝いたします。これまでは、忙しい日々の生活の中で何気なく過ぎてきた中でも学校に足を運ぶようになってからは、子供と関わり方が何か違ってきたように感じます。この三年間は皆様にとってかけがえのない三年間だったと思いますが、人生の先輩として皆様にお伝えしておきたいと思います。

なんでも、一生懸命やってみること。
一生懸命やっている姿は、周りの皆が見ている。いつかそれが認められ、新たなチャンスにつながる。そこからきつといい結果が訪れる。

何かを起こさないと何も変わらないし何かに挑戦した人にしかわからないことがあると伝えたいと思います。

そして、社会の激しい変化に対応するため、生涯学び続けて、自分も周りにできる人になっていってほしいです。そのためには、感謝の思いを常に持ち、出会いを大切にしてください。

最後になりましたが、教職員の皆様方には、三年間ご指導いただき心より感謝いたします。そして、これからの皆様のご活躍を心よりお祈りいたします。

PTA活動を振り返って

生徒指導部専門委員長 佐久間紀彦

甲府昭和高校第三十三期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

私は、娘が小学生・中学生の頃にはPTA活動にかなり深く参加していましたが、高校ではほとんど参加できずにいました。今年度、初めて高校のPTA専門部に入りましたが、やはり良い経験になりました。

朝の交通安全マナーアップ運動では、明るく挨拶を交わしながら登校する生徒たちを見ました。以前から感じていましたが、元氣よく挨拶することは甲府昭和高校の伝統であることを、改めて実感しました。学園祭では校内のパトロールを行いました。自分たちが行う企画に全力で、楽しく取り組む姿勢をうかがうことが出来ました。三年間という短い高校生活ですが、それをさらに凝縮した瞬間が学園祭であるように思えます。学園祭に一度は訪れてみたいと思っていざしましたが、委員になり校内パトロールに参加しなければ、学園祭へ行くこともきつくなかったことでしょうか。良い機会を与えてくださり、ありがとうございました。

後で知った事ですが、生活指導部専門の委員長は南甲府警察署から少年補導員に委嘱されます。私のようにPTA役員の人もいますが、多くは各地区から選出された方です。少年補導員の活動として、甲府市内で行われる大きなイベント等で、地区の少年指導員が中心となり巡回指導を行っているとの話を聞きました。高校生にもなると、こういう呼び方は多少違和感がありますが、高校生も「子ども」です。子どもたちが犯罪・非行に巻き込まれないよう、学校と保護者だけでなく、地域の方もこのような形で見守っていることを知ることが出来ました。PTAの役員になることを敬遠する保護者の方は大勢いますが、参加すると必ず新しい発見があると思います。

最後になりますが、三年間ご指導くださいました先生方には心より感謝申し上げますとともに、さらなるご活躍をお祈りいたします。

卒業生の皆さんへ

保健体育部専門委員長 伊藤綾子

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

入学されてから今日の三年間、たくさんの経験を積まれてきた事と思いますが、どの経験も、皆さんを一回りも二回りも成長させてくれたのではないのでしょうか。かけがえのない友人やお世話になった先生方との出会い、楽しい学校行事、大切な授業、厳しい部活動などなど、三年間で積まれた数え切れない経験は、一生の宝物になると思います。またその経験は、皆さんの個性をより輝かせてくれるものになると思いますが、三年間振り返ってみて、諦めてしまった事や乗り越えられなかった事がもしあれば、是非、これから歩んでいく人生の課題を与えていただいたと受け止め、諦めずに、自分を信じてチャレンジし続けて、乗り越えていって欲しいと思います。学校に足を運ばせていただいた際、すれ違う生徒さんが次々に明るく元氣な声で挨拶をしてくれた事がとても印象に残っています。これからもこの挨拶同様、基本を忘れずに、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、甲府昭和高校で過ごした三年間の素敵な思い出と経験を胸に、輝かしい人生を歩み続けてください。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、ご指導くださった教職員の皆様には心より感謝を申し上げます。皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

PTA活動

総務

一年間の活動報告

主任 千野 満 広

平成三十年度のPTA活動としては、7月の関東高校PTA栃木大会に小澤PTA会長と中村教頭が出席をしました。また、学園祭(紫映祭)では、役員の方を中心に総合受付や出店(PTA喫茶店)などの補助員もやっていたきました。8月の全国高校PTA佐賀大会には、小澤PTA会長と井上校長が出席をしました。10月の学校公開では、フードバンク食品回収を実施し、多くの保護者に受付や仕分け作業の協力をいただきました。お陰様で、段ボール30箱以上の食品を集めることができました。また、西日本水害などの災害募金に対しては、一、二、五、七、六の寄付が集まり、全国高等学校PTA連合会にお渡ししました。ご協力ありがとうございました。進路専門部は6月に進路講演会を実施しました。保健体育専門部は9月に、強歩大会に備えて心肺蘇生法の講習会を実施しました。10月の大会では、多くの保護者の方々の交通指導などのご協力をありがとうございました。生徒指導



佐賀大会

全国高等学校PTA連合会大会

フードバンク 食品回収活動

十月二十九日の公開授業週間に合わせて、PTAによるフードバンク食品回収活動を行いました。保護者の皆様には食品を寄付して下さったり、また回収の受付のお手伝いなどのご協力をありがとうございました。おかげさまで、段ボール二〇箱以上の食料品が集まりました。フードバンク山梨に届けるボランティアを生徒に募ったところ、七名の生徒から希望が出て、小澤浩PTA会長と共に、南アルプス市の認定NPO法人「フードバンク山梨」にお届けしました。



食料支援を必要としているひとり親家庭などの困窮世帯や、児童養護施設などに食品を届けるための箱詰め作業を行いました。生徒たちは、サンタクロースの帽子をかぶりながら、段ボール箱に、お米やお菓子、缶詰、調味料などを手分けして入れていき、ゆうパックで各家庭などに発送を行いました。当日は、NHKやUTY等の放送局も取材に来ていただき、ニュースとして放映してもらいました。

ちから寄付してもらった古本の販売を、図書室で行いました。情報では、学校ホームページにおいてスピーディーに様々な学校の様子の情報発信を行いました。広報誌「TRY SHOWA」の発行も年4回行い、在校生全員と中学生や地域(昭和町役場・西条一区)に配布しました。普段の生徒たちの生き生きとした活動の様子が分かっていただければ幸いです。iPadも42台新たに導入し、ICT教育活動に活用しました。情報化時代の今日、情報提供、情報機器が適切に利用できる環境を今後も整えていきたいと思います。



平成30年度 PTA 年間事業

- 4月 7日 入学式・新入生保護者会
11日 PTA学級委員選挙
17日 PTA各学年部会委員会・専門委員会・役員会
27日 公開授業・PTA学年部会総会・PTA総会・PTA学級懇談会
5月 14日 県高P連第1回理事会
18日 県高P連定期総会
6月 5日 PTA専門委員会(進路)進路講演会(3年保護者対象)
28～30日 甲府昭和高校紫映祭 30日：一般公開日

7月 6～7日

第64回関東高P連大会(栃木県)

17～20日

三者懇談(1・2・3年生)

8月 19～21日

第68回全国高P連大会(佐賀県)

9月 26日

PTA専門委員会(保体)(強歩大会関係)

10月 4日

校内強歩大会

29日

公開授業(授業参観)フードバンク食品回収

12月 中旬

三者懇談(3年生 各クラス随時)

1月 23日～28日

三者懇談(1・2年生)

2月 19日

PTA学年監査(3年)学年部会委員会(3年)

3月 1日

第31回卒業証書授与式、PTA第3学年部会総会

18日

PTA学年監査(1・2年)学年部会委員会(1・2年)

学 年 報 告

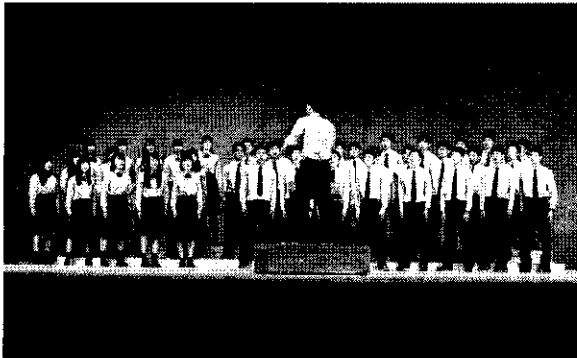
進路を実現するため、為すべきことを為す

三学年主任 風間 久幸

三十三期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんと一緒に歩み始めて三年間が過ぎようとしています。皆さんとともに過ごしたこの三年間は、私にとってとても濃厚で充実した日々でした。

さて、この学年は、一年次に「自ら考え、自らの意志で行動する」、二年次に「他者を理解し、自分を理解してもらうために努力する」、そして今年度「進路を実現するため、為すべきことを為す」という方針を掲げました。三年生にとって最大の目標は、何といっても進路実現です。人とは違う唯一無二の存在として、自分の進路は自分自身の力で切り拓かねばなりません。しかし、受験は団体戦でもあります。お互いに励まし合える人間集団のなかで仲間と切磋琢磨しながら、自分の夢を実現しようという強い思いをもって努力することが三年生の課題だと思います。

そんな三年生としての皆さんのがんばりが垣間見えたのが紫映祭でした。「平成は終わるが、昭和は終わらない！」のテーマのもと、六月二十八日から二日間開催された紫映祭では、各部門において三年生の活躍が光りました。



最後にひとこと。進学先・就職

た。特に合唱部門では、本当に素晴らしいハーモニーを聞かせてくれました。他にも、集会での集合の早さに、五分前遅刻の少なさに、献血への積極的な協力姿勢に、三年生の集団としての力を見ることができました。今、センター試験を前にこの文章を書いています。が、すでに学年の半分近くの生徒が自らの手で合格を勝ち取りました。今度は一般受験を戦う皆さんの番です。集団のエネルギーをバネに、一人一人が思いをこめて自らの将来に立ち向かってほしいと思っています。

先が決まったとしても、それは皆さんにとって、遙かな未来へと続く道のりのスタートラインを確保したに過ぎません。皆さんが進む未来は大きな可能性とリスクに満ちあふれています。心を願っています。

「想像力と感受性」を大切に 「自己他者を理解する力」を育てる

二学年主任 秋山 すみ江

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。第三十三期生の皆さんが今後ますます活躍されることを、心よりお祈りいたします。

さて、三十四期生は一年次に「想像力と感受性を大切に、主体的に行動しよう」という方針のもとにスタートしました。今年度は想像力と感受性のもとに、言葉や思いを大切に、「自己・他者を理解する努力をしよう」を掲げて、中核学年として、部活動、生徒会活動、学校行事などを担ってききました。その様々な活動の中で、よりよい人間関係を作るために試行錯誤し、言葉や思いを大切に、他者をそして自己を理解する努力をしてきています。そうした活動の中で最も大きな成果があったのは研修旅行ではないかと思っています。沖縄で実際に戦争体験をされた方々の講話に、真剣に耳を傾け、資料館で真剣に資料に見入るまなざしは、戦争を知らない自分たちが、何を感じ、何を語り継がなければならないか、を必死に考えている姿にみえました。

さて、学年集会で「桜のピンク色はどこに隠れていると思う？」といった話をしました。桜は樹皮

ちあふれています。労を厭わず自分を磨きましよう。周りの人を大切にしましょう。皆さんが素晴らしい未来を切り拓いていくことを心から願っています。

にあのきれいなピンク色を蓄えています。長く厳しい冬の間の風雪に耐えながらピンク色を作り出す。この二年生の生徒達も、これから迎える長く厳しい受験期に耐え、来年の三月には一人ひとりに素敵なピンク色をした桜の花をつけて欲しいと思います。来年度はいよいよ勝負の年となります。自らの進路や将来と直面したときに親や教員に頼るのではなく、自らの考えで進路を選び、その実現に向けて自らの意志で努力する人間

「人のため力尽くせる」人をめざして
一学年主任 上杉 尚子

三年生のみなさん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。平成最後の節目の年に、卒業を迎える第三十三期生のみなさんが、新しい時代を創る先駆者として、ますます活躍されることを心よりお祈りいたします。

さて、一学年は入学以来、仲間とともに智を磨き、心を鍛え、人としてたくましく成長することを目標に、「考える」ということを大切にしています。他人から「あしなさい」などと言われてから動くのではなく、自分で「今必要などとは？」「今何をすべき？」などと考えて、判断して、行動できるようにしたいと思っています。失敗することや否定されることを恐れてすぐに正解を知りたがり、言われたことだけを無難にこなしていたりするので、自身の成長はありません。それ以上に、自分で考えて動いてみない限りは、本当に納得のいく答えは出ないと思うのです。何が正解か分からない、さらに言えば自



らが正解をつくり出さなければならぬ。これからの時代を歩んでいく生徒たちに、第一に求められる力が、「考える」ということだと思います。

また、ことあるごとに「自分ならどうする？」「自分が今、これをしたら（言ったら）どうなる？」と、一度考えてから行動できるようにもなっていて欲しいと思っています。周りのことにも目を向け、意識を向け、「考える」。これこそ、我が学年が最終的にめざす、「人のために力を尽くせる人」になるために、大切なことと考えます。

一言に「考える」と言っても、なかなか難しいこと。一朝一夕で身につくことではありません。根気強く、粘り強く向き合いながら、自ら考えて主体的に動くことのできる生徒を育てていきたいと思っています。そしてこのことが、個々の進路実現を可能にし、さらには次代に求められる人材をつくれると信じています。保護者の皆様にも是非ご理解いただき、ご協力をお願いいたします。



進路指導

次の時代はAIと愛

主事 矢崎 敏明

第三十三期生の皆さん、ならびに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

人工知能の技術進歩が注目される今日ですが、人間の深層学習（ディープラーニング）は5、6層のネットワーク層で成り立ち、ある層での演算後に次の層に情報を送り、更に思考を深めているそうです。囲碁で人間と対局するAIは13層、現在開発が進むAIはなんと2千層。思考において人間が優位性を失うのは時間の問題だと感じずにはいられません。

こんな活動を通してこんな力を身に付けた。こんな視点で、自分の未来をより明確に見つめるようになった……。卒業する皆さんは甲府昭和高校の3年間で何を学びましたか。多くの体験・経験から自分の思考をより深め、社会参加への意義を高めながら自己実現に向けた一歩を踏み出せたでしょうか。

卒業に寄せて

時代の変化は加速しています。今の社会では想像できない出来事が日々待ち構えていることでしょう。「自分探し」が行った時代もありますが、自分を探しても何も答えは



先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

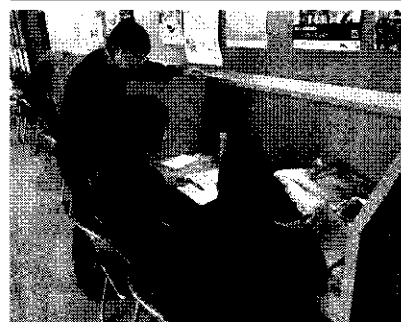
先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

生徒指導

346(サンシロー)大作戦

主事 前村 強



先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

教務

卒業に寄せて

主任 熊王 和彦

第三十三期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

三年間を振り返ってみて、本校での高校生活はどうだったでしょうか。高校の授業は専門性も高く、学年が上がるにつれて進度も速くなるため、各目の目標を達成するのは大変だったはず。しかし、皆さん一人ひとりが努力して乗り切ったものだからこそ、今回の卒業には価値があるのだと私は思っています。苦勞して手に入

感等、「集団の中の個」としての役割や意識を持って欲しいと考えました。また、それぞれの目標が、基本的な生活習慣の確立という中で密接に繋がっていることを実感してほしいと思いました。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。



先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

先は自らを律し、他を尊重して受け入れる、人のために尽くすことが求められると信じています。AIで実現できない感情・愛が新しい世界を切り拓くことでしょう。

年間活動報告と

生徒会

TRY/SHOWA Atoz

主任 熊谷 剛

生徒会(二〇一八年度の新しいTRYを振り返ります。

り掲示して生徒昇降口からの通路を彩りました。トライスのTRYも行いました。

①『毛筆でTRY』

③『ボランティア活動にTRY』

筆で『君のTRYノは?』を掲示しました。力強く

「特別養護老人ホーム昭寿荘」への年末清掃ボランティアに一一四名の参加。「フードバンク

山梨こども支援プロジェクトボランティア」に一六六名が参加しました。二年生の進路決定者の参加

も有り、生徒会本部の予想を大きく上回る参加者でボランティアの輪が大きく広がりました。

②『TRYプロジェクト』

④『心のバリアフリーにTRY』

高校総体、紫映祭各部門長&团长、高校野球予選、関東大会出場、インターハイ出場、アイオワ短期留学、芸文祭参加等々、本校生徒の多くのTRYを具体的に表現し、目標と振り返りを画像によ

山梨県主催の障害者週間の実施に伴う「心のバリアフリー推進標語」において、学校特別賞を二年連続で受賞しました。更に、「十人十色 だから世界は 無制限」が優秀賞を受賞しました。この優秀賞も二年連続という快挙でした。自分の能力を自分の為だけに無く、人に貢献する精神が、この取り組みにつながっていると確信しています。

⑤『団Tシャツで野球応援にTRY』

今年から団Tシャツ着用応援が始まりました。年々充実している野球応援ですが、団Tシャツ着用により一気に飛躍した感がありました。七色に彩られた学校応援席



き渡りました。

⑥『トライステーマソング&ダンスにTRY』

トライステーマソングとトライステマソングが誕生しました。とても可愛らしいダンスを、ダンス部のみなさんが創作しました。

多くの『NEW TRYノ』が行われましたが、常に前進し続

で初戦突破後に、全校生徒が全力で歌う本校校歌が山HYBS球場に響

ける事は、私達に「何ができるか?」を問う姿勢の表れでもあり、自分の【TRYノ】に進進する姿そのものであったと思っています。

最後に、第三十三期生のみなさんは卒業しますが、生徒会公認マスコットキャラクターの「トライノ」は、本校の発展の為だけでなく、地域にも大きく貢献する事を目標に更に前進します。

みなさんの「トライノ」はこれからも【TRYノ】します。

研究・研修

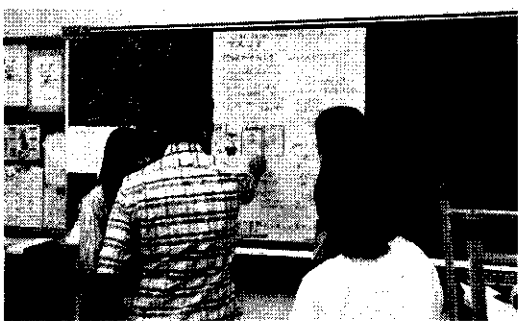
研究研修係の一年

主任 渡邊 英 裕

第三十三期生の皆さん、保護者 進んでいくことをお祈りしております。皆様、ご卒業おめでとうございます。

さて、研究研修係ではキャリア教育の視点から、今後生徒が身に付けるべき資質・能力の育成を目指したCan doリストを活用し、総合的な学習の時間を計画し、実践しています。

本校は、世界で活躍するグローバルリーダーを育成するスーパーグローバルハイスクール(以下SGH)のアソシエイト校に指定されています。総合的な学習の時間では、SGHの目標も視野に入れた、課題の設定、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の四つの場面を有機的に結びつけながら、生徒の発達段階に応



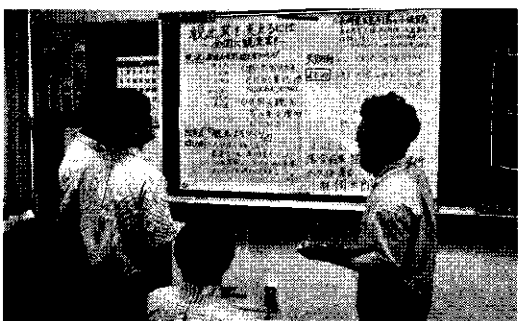
じたスパイラルな探究活動を行ってきました。

一年生は東京方面で実施しているエネルギー教育校外学習を柱にした「エネルギー」をテーマとした探究活動を行いました。山梨大学名誉教授の鈴木先生による講演や熟議を通じて、エネルギーに関する現状と課題について理解を深め、よりよい環境を次世代に引き継ぐためにどのような生活改善が必要かを徹底的に議論しました。また、有識者を招いて全体発表会を行い、指導助言をいただきました。また、昭和町議会と連携し、地域の課題に関する探究活動も行いました。昭和町議会の議員の方々に生徒の熟議の場に入ってもらい、具体的な指導、助言をしていただくことにより、レベルの高い探究活動を行うことができました。

二年生は沖縄への研修旅行を踏まえた平和に関する探究活動を行い、その後、国内から国際社会にテーマを移し、発展的な探究活動を行いました。一月には、二年生合同の成果発表会を行い、一年間のまとめをすることができました。そして三年生は、進路選択に関連する探究活動を行いました。グローバルに活躍する企業やNPO法人から指導助言者を招聘し、ポスターセッションを行い有識者から直接、将来役立つアドバイスをもらいながら、より高度な課題発見・解決能力を身につけることができました。



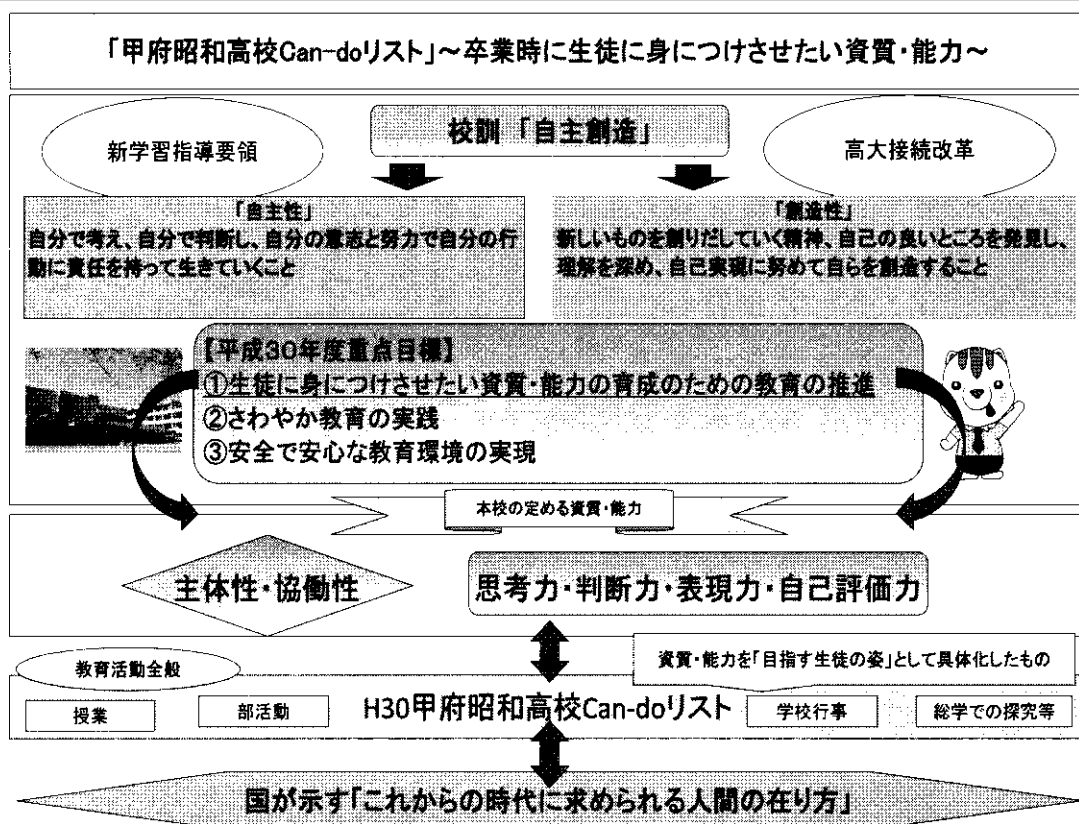
これらの活動が、将来生徒の皆さんが地域及びグローバルに世の中で貢献出来る人材に成長することに役立つことを期待しつつ、来年度は活動を一層充実させたいと思います。



社会で活用できる 資質・能力の育成を目指して

教頭 今村 勇 二

二十一世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増



す、いわゆる「知識基盤社会」の時代と言われている。また、超スマート社会(Society 5.0)の実現に向けて人工知能(AI)やビッグデータの活用などの技術革新により、社会構造は世界的に大きな転換期を迎えている。典型的な仕事は、今後ますます機械化・自動化が進むと予測されていて、人には、問題を見いだして他者と協働し解決したり、新たな価値を生み出したりすることが一層求められるようになる。

そこで本校では、昨年度より全教職員による熟議を重ね、本校の三年間の教育で身につけさせたい資質・能力をまとめ、「甲府昭和高校Can-doリスト」を策定した。本校で考える「資質・能力」とは「主体性」「協働性」という一つの資質と、「思考力」「判断力」「表現力」「自己評価力」の四つの能力である。各教科の授業、総合的な学習の時間、部活動、学校行事等の教育活動で、知識・技能を身につけるだけでなく、身につけた知識・技能を活用する様々な探究的な活動を通して、「これからの時代に求められる資質・能力」を育成していこうと取り組んでいる。

今、高大接続が叫ばれている。これは、単なる大学入試改革でない。学力の三要素を育成する「高等学校教育」、高校まで培った力をさらに向上・発展させ、社会へ送り出すための「大学教育」、高校教育と大学教育の間にあって、学力の三要素を多角的に評価する「大学入学者選抜」を三位一体に改革するもので、すべてのカテゴリーを通して「これからの時代に求められる資質・能力」を育成していくことを目指している。すなわち、根底にあるのは、社会で活用できる資質・能力の育成である。本校では「高等学校教育」の改革として「甲府昭和高校Can-doリスト」を活用し、目標設定や評価・振り返りに生徒、教職員、保護者が共有して取り組むことにより、社会で活用できる資質・能力の育成を図っていく。



紫映残照

2018年、平成30年(2018年)はどのような1年だったでしょうか。2月の平昌五輪での日本勢の活躍に始まり、サッカーW杯ロシア大会16強、野球の大谷翔平選手やテニスの大坂なおみ選手の世界レベルでの活躍など、スポーツ界の明るいニュースとは対照的に、7月の西日本豪雨や夏の災害級の猛暑、9月の大型台風襲来、北海道での震度7の地震など自然災害に多く見舞われ、甚大な被害がもたらされた1年でもありました。そして今年5月の改元を控え、年末から「平成最後の…」を枕詞に行事が語られることが急激に増え、否応なしに平成という時代について考える機会が増えました。

「平成」は日本の時間の区切りですが、振り返ると世界史の上でも大きな区切りであったことに気がきます。平成元年(1989年)は奇しくもベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦が終結した、まさに歴史に残る大転換の年でした。それ以降の30年の、グローバル化・ネットワーク社会・技術革新の進展に代表される世界や日本の大きな変化を考えると、新元号とともに迎える次の30年も倍速の変化が待ち受けていることが予想されます。さらにIT化が進み、テクノロジーの進化が著しい時代となり、これまでにまして社会の流行はめまぐるしく変わり、人々の価値観や特性も大きく変わっていくことでしょう。

あわせて、3年前の『LIFE SHIT』出版により世の中にリリースされた「人生100年時代」という発想。明らかに「人生80年時代」とは異なる人生設計が必要となります。この人生100年時代と前段でふれた今後の社会変化について考える時、20歳前後までの学校教育で得た知識や価値観だけで残りの80年間を生き抜くことが難しいことは、容易に想像できます。つまり、一生を通して学び続けなければならない時代に踏み込んだということかもしれません。ではいつになっても新しいことを習得しようとしたか、そしてそれを実際の現場で使おうとしたか、という学習手法の訓練とその経験値の積み重ねが基礎となると考えられます。それに加えて、他の人と共働して議論する中で、意見を出し合いながら課題解決を図っていく姿勢、自分の判断力を鍛えつつも多様な意見を聴き、柔軟に取り入れようとする姿勢、なども欠かせないでしょう。時代の変化を敏感に感じ取り、スマホのアプリをアップデートするがごとく、自分の中に築いてきたシステムをアップデートすることをいとわない姿勢が大切でしょう。そして最後に、100年の人生を歩む子供たちの周りにいる大人たち、教育に携わる者や保護者もそうした知識や価値観のアップデートを辞さない勇気を持たねばならない時であると感じます。

(教頭 今村 勇 二)